

氏 名：猪飼 やす子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第177号
学位授与年月日：2019年9月17日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 廣瀬 清人（聖路加国際大学教授）
副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）
副査 鶴若 麻理（聖路加国際大学准教授）
副査 尾島 俊之（浜松医科大学教授）

論文題目：突発性肺線維症をもつ人々への「Dignity-Centered Care プログラム (DIGNITY-IPF)」の開発と質的研究主導型混合研究法による適応可能性の評価

博士論文審査結果

本研究の目的は、特発性肺線維症 (Idiopathic Pulmonary Fibrosis; IPF)をもつ人々への Dignity Centered Care プログラムを開発し、プログラムの適用可能性を質的研究主導型混合研究法による収斂デザインによって検証することである。

このプログラムは、IPF 患者の症状観察と対処方法、日常生活動作教育、及び人生の意味をテーマとしたライフレビューによって構成された。1回 60 分以内で3回のセッションを病院の外来個室と自宅訪問により実施した。

安定期 IPF 療養者 12 人に、Dignity-Centered Care プログラムを実施した。質的データは、プログラム全終了後に、IPF と共に生きることへの受け止めをインタビューによって収集した。また、量的データは、プライマリアウトカムとして自尊感情、セカンダリアウトカムとして健康関連 QOL、不安・抑うつ、呼吸困難感、咳を収集した。いずれも介入前後で繰り返し測定された。

審査での主要な指摘事項は4点あった:統計分析手法の根拠が不明、カテゴリ名の再検討、ジョイント・ディスプレイが不明瞭、プログラムによる尊厳向上への寄与に関する記述、また、収集した症例数が予定よりも少なかったため、プログラムの有効性を検討することに主眼を置かず、今回、質的研究主導型混合研究法を用いた分析によって明確化できた、本プログラムの適用可能性を検討する内容にあらためることなどであった。審査委員全員が、これらの修正事項について、猪飼氏の加筆修正が適正であることを確認した。また、これらの修正に伴い、論文題名を変更することを確認した。

本研究は、IPF が稀少難病であるという理由から、その看護研究が限られる現状に対し、プログラム開発と適用可能性を検証した研究であり、看護研究に一石を投じると評

価されたと同時に、**Dignity-Centered Care** を基盤とする看護実践によって臨床に大いに貢献する可能性が評価された。

以上の審査結果に基づき、本研究は博士論文審査および最終試験を「合格」と判定すると審査委員の意見が一致した。